



JST OPERA 食と先端技術シンポジウム

気候変動と安定的な食料生産のために 最先端の品種改良技術はどのように貢献できるか？

本シンポジウムの趣旨

品種改良のイノベーションは、将来的な食の課題にどのように貢献できるかについて、食料にかかわる幅広いステークホルダーが意見を交わす場を提供します。

会場参加者もスマートフォン等を使用した双方向のコミュニケーションにご参加いただけます。

日時：2023年12月1日（金）13:30~17:30 [13:00 受付開始]

会場：一橋講堂（〒101-8439 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2 学術総合センター2F）

定員：500名（先着）

*参加お申し込みはコチラ ⇒

参加費：無料

<https://forms.gle/U8r2nmuCo167mSud7>



プログラム

総合司会 津田 麻衣（筑波大学）

1. 開会挨拶 13:30~13:45 三浦 謙治（筑波大学）

2. 講演 13:45~16:00（各講演15分）

「日本国内での良質な小麦生産に向けた穂発芽耐性コムギの開発(仮)」

安倍 史高（農研機構）

「シシリアンルージュハイギャバからみる食の未来」

竹下 心平（サナテックシード）

「日本において種苗会社がゲノム編集の利用に期待すること・課題に思うこと」

堀越 英夫（カネコ種苗）

「ゲノム編集トウモロコシの開発・市場について」

松下 茜（コルテバ・アグリサイエンス日本）

「Improving Potato and Strawberry through Genome-Editing」*動画講演

Gary Rudgers（J.R.Simplot）

「日本の農業の課題と望まれるバイオ品種について、現場のリアルな声」

徳本 修一（日本バイオ作物ネットワーク）

「生協の生産・流通・消費現場からみた新しい品種改良作物について」

古山 みゆき（生活協同組合コープこうべ）

「ゲノム編集技術応用食品に関するアンケート調査について」

郷野 智砂子（一般社団法人 全国消費者団体連絡会）

3. 質疑応答及びパネルディスカッション 16:15~17:20

ファシリテーター 小島 正美（ジャーナリスト）

パネリスト 全講演者、氏家 清和（筑波大学）

4. 閉会の挨拶 17:20~17:30 福田 豊治（日本種苗協会）

主催 JST OPERA 食と先端技術共創コンソーシアム「食の未来を拓く革新的先端技術の創出」

《幹事機関 国立大学法人筑波大学》 <https://opera.tsukuba.ac.jp/>

協賛 一般社団法人日本種苗協会、アメリカ種苗協会

【お問合せ】筑波大学産連 OPERA 事務局 Mail : opera-sanren@un.tsukuba.ac.jp



筑波大学
University of Tsukuba